

ISTQB/JSTQBの最新動向 CTFL2018シラバスの公開

2019/3/28

JSTQB 技術委員会



ISTQB/JSTQBとは

▶ ISTQB

- ▶ **ソフトウェアテストに関する国際的な資格認証**を行う非営利団体
- ▶ 2002年に設立



▶ JSTQB

- ▶ **ISTQBの加盟国として、日本国内でISTQBに沿った技術者資格認証**を行う組織
- ▶ 2006年より資格認証を開始

ISTQB/JSTQBの認定技術者

グローバル (ISTQB) では、

120か国で60万人以上の認定者

日本 (JSTQB) では、

国内で認定者が1万6千人を突破

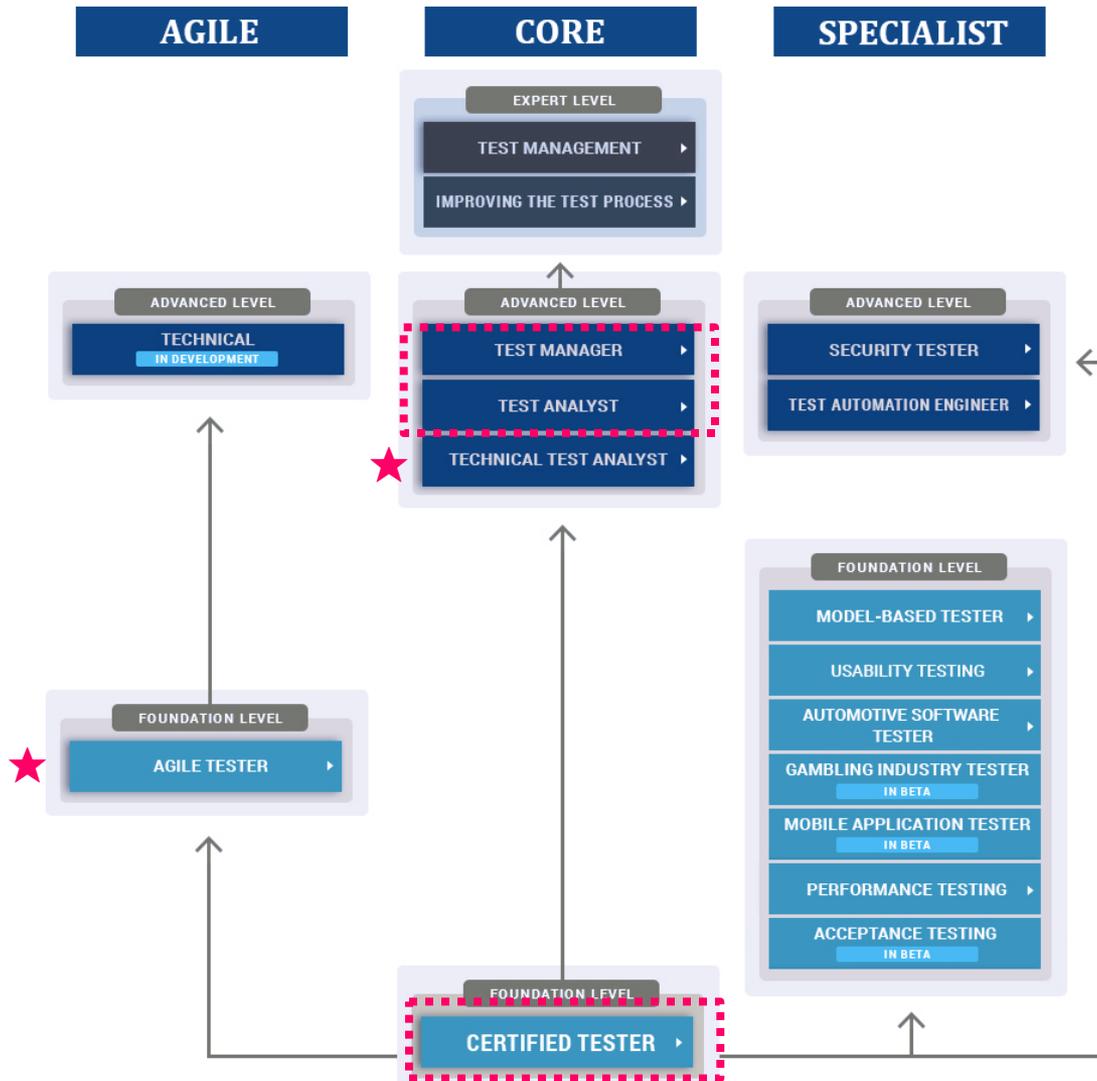
※ 2019年3月現在

JSTQBのテスト技術者資格は、ISTQBを通じて
加盟組織間で**相互認証される世界的資格**

日本での認定実施状況

日本で認定実施中

★ 日本語版シラバスリリース



シラバス公開中

新

- *FL* →2018年度版の公開
- *AL* (テストマネージャ)
- *AL* (テストアナリスト)
- *AL* (テクニカルテストアナリスト)
- *FL* (アジャイルテスター)

シラバス (日本語版) は
*JSTQB*のサイトより無償でダウンロード
できます!

<http://jstqb.jp/>

新FLシラバス(2018年度版)の概要

初めてのメジャー・バージョンアップ

- 2018年5月にISTQB総会で承認された最新シラバス
- これまでの財産を引き継ぎ、最新のテストに対応できるよう改善
- CTFL2011からCTFL2018の主な変更点
 1. 本質的なことは何も変わっていない
 - 変わったことは、構成の見直し、参照する標準の最新化、例えばイマドキになったこと
 2. レビューについて多く取り扱うようになった
 - レビューテクニックについて紹介し、K3のLO（学習の目的）として扱われるようになった
 3. ブラックボックステスト技法がより詳しくなった
 - 各テスト技法について、ページ数を増やして、より詳しい記載がされている
 4. ホワイトボックステスト技法の多くが対象外になった
 - 紹介程度の記載に止まるようになり、K4のLOではなくなった
 5. 用語の変更
 - 欠陥レポート、テスト完了、テスト技法など

1. 本質的なことは何も変わっていない

■ 変わっていないこと

1. シラバスの目的、章構成、対象読者

2. 受験要件、試験出題数、合格ライン

- 本質的なことは変更ないため、今までと同じように受験できる
- そのため、これまでの試験で取得したFL資格も有効となる

■ 変わったこと

1. 体系の曖昧なところを全般的に見直した

- 「概要」文書にて、ビジネス成果とLOの関係を明確にした
- LO毎の学習に必要な時間とトレーニングコースの所要時間の関係を見直した

2. 参照する標準を最新版にし、シラバスの内容を見直した

- テスト、レビュー、プロダクト品質の標準は全て2010年以降の版に置き換わった

3. 具体例を見直した

- 多くの具体例がアジャイル開発、IoTプロダクトなどに置き換わった

4. 記載の重複、他のシラバスとの重複を見直した

- 4章のテスト開発プロセスを1章へマージ、ホワイトボックステストや静的解析はTTA

2. レビューについての扱い

- いままではプロセスのことしか書いていなかったが、レビュー技法の節が追加された

FL-3.2.4 (K3)

- 欠陥を検出するために、作業成果物にレビュー技法を適用する

「3.2.4 レビュー技法の適用」

- アドホックレビュー
- チェックリストベースドレビュー
- シナリオベースドレビュー
- ロールベースドレビュー
- パースペクティブベースドリーディング

※ まったく新しい追加はこの節のみ

3. ブラックボックステスト技法

- 技法の説明が充実し、FLで扱うカバレッジ基準も明確に記載されるようになった

同値分割法

- 有効同値クラスと無効同値クラスの定義
- 同値分割する対象（入力値、出力値、内部値、時間関連の値）
- 無効同値クラスは、ある故障が他の故障をマスクするので独立させてテストする。

境界値分析

- 2値でとる境界値分析の具体例による解説
- 3値でとる境界値分析の解説

デシジョンテーブルテスト

- 条件部分はブール値か離散値でとる
- 単純化 (*collapsed*) の解説
- 表記ルール

状態遷移テスト

- 状態遷移モデルのガード条件やアクションの解説
- 図で書く場合と表で書く場合の違い（無効な遷移を対象にする場合は表がよい）

4. ホワイトボックステスト技法

■ K4としてのテスト対象ではなくなった

FL-4.3.1 (K2)

- ステートメントカバレッジを説明する

FL-4.3.2 (K2)

- デシジョンカバレッジを説明する

FL-4.3.3 (K2)

- ステートメントカバレッジとデシジョンカバレッジの価値を説明する

5. 用語の変更

■ ISTQBとしての用語の変更

インシデントレポート→欠陥レポート

- 基本的には、欠陥と故障とエラーのみが重要用語として扱われている
- インシデントと同様の概念として、不正(*Anomaly*)が用いられるが重要用語ではない

テスト設計技法→テスト技法

- テスト設計以外でも使えるため

テストプロセスの定義

- 分析、設計、実装、実行、計画、コントロールが独立した概念になった
- 終了基準の評価とレポートと終了作業がマージされてテスト完了となった

■ 重要用語の訳語の見直し

同値分割→同値パーティション

- 名詞のみ変更、動名詞は「同値分割法」のまま

保守テスト→メンテナンステスト（注記）

回帰テスト→リグレッションテスト

方法論的戦略→系統的戦略

公式レビュー→形式的レビュー

日本語訳を変更しただけであり、ISTQBのシラバスとしては変更がなく、これまでとは違う概念になったわけではない

日本でのCTFL2018への切り替え スケジュール

- **日本でのCTFLシラバス2018の公開**
 - 2019年3月29日 JSTQBサイトからのダウンロードが可能になる予定
 - 用語集は2019年8月以降に最新化する予定
- **日本でのCTFLシラバス2018準拠の試験実施**
 - 2020年2月以降の予定
 - 2019年8月のFL試験はこれまでと同じ2011年度版シラバス準拠で実施

EOF

JSTQBに関するお問い合わせ窓口
JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board)

E-mail : query@jstqb.jp

- ※1:本アドレスで受けられるメールの最大容量は50KBとなっておりますのでご注意ください
- ※2:お問合せの内容によっては、検討後に回答させていただくものもあり、お時間をいただく場合があります

FAQもあわせてご利用ください
<http://jstqb.jp/faq.html>